

市政ニュース

副市長・収入役の任期満了に伴い 収入役を廃止し、副市長を二人制にします

平成17年5月に就任した奥田清喜副市長と塚本信行収入役が、5月15日で任期満了となりました。

2人には、新市誕生直後から、新市の基盤整備に大きく貢献いただきました。

今後、副市長は、収入役の廃止により2人体制にすることが、5月14日に開催された市議会臨時会において可決されました。

副市長を2人置く理由は、大きく2点あります。

①市政の重要事項に関する意思決定の質・スピード・負担の度合を維持する。

②広い市内のさまざまな行事に特別職が出席し、広く市民の皆さんの声を聞く。

新しい副市長には、5月16日付けで、中川茂さん(前豊岡市健康福祉部長)が就任しました。

なお、もう1人の副市長に

ついては、後日の選任となります。

また、収入役の事務は、地方自治法の一部改正により、一般職員が「会計管理者」となり、引き継ぐことが決まっています。したがって収入役の後任者はありません。



▲退任セレモニーで花束を贈られた奥田副市長(左)と塚本収入役



なかがわ げいぶ
▲中川 茂

【副市長】
(任期4年・敬称略)

市議会臨時会で選任または任命された委員 (敬称略)

【監査委員】 (任期4年)



さくはな なおひさ
▲作花尚久

【教育委員会委員】 (任期4年)



いがみ つこ
▲井垣美津子

【選挙管理委員会委員】 (任期4年)



うきた かずお
▲浮田一雄



そえだ まさる
▲副田 勝



しょうみ えいこ
▲正見英子



はたなか たかお
▲畠中隆夫

小坂地区公民館に県民交流広場が完成

5月9日、小坂地区公民館(出石町福居)に県民交流広場が完成し、竣工式典を行いました。これは、子どもや高齢者など多くの人たちの憩いふれあい、交流拠点施設として建設され

たものです。当日は、地元住民2人が書道吟「富士山」を演じて完成を祝いました。



▲多目的利用ができる広場

主な市政の動き

【4月】

16日・地元企業製品展示会開会・セレモニー

19日・豊岡市長選挙告示・無投票で現職の中貝宗治市長が再選

29日・あいたい兵庫デスティネーション「名探偵コナンミステリーツアー」開始

1日・中貝市長、2期目の初登庁。登庁式

10日・北近畿タンゴ鉄道但馬三江駅の愛称「コウノトリの郷」駅、命名記念イベント

14日・平成21年第3回豊岡市議会(臨時会)



いしかま まさのぶ
▲石高雅信

市長と楽しくおしゃべりしませんか？ 「中貝市長とふれあいトーク」

グループ
募集

中貝市長の2期目の市政が始まりました。そこで、市民の皆さんと市長が気軽に語り合える機会を設けます。名付けて「中貝市長とふれあいトーク」。

皆さんが取り組んでいる活動のこと、地域やまちづくりのこと、日々の暮らしのなかで市役所に寄せる思いなどについて、中貝市長が直接お聞きし、意見交換をします。

見知らぬ人が居ては話しにくい、仲間と一緒になら…そんな方は、ぜひ気軽に申し込みください。普段、市長と会う機会の少ない学生などの若い方、女性などの申込みもお待ちしています。



◆申込資格

市内在住、在勤、または在学者を半数以上含む5～10人程度のグループ
(政治活動や営利目的のものなどは除きます)

◆トークの方法

グループが希望されるテーマに沿って、約1時間、中貝市長と意見交換をします(単に市への要望をお伺いするものではありません)。

◆開催日時・場所

会場	月日	時間	募集数 (グループ)
城崎総合支所	6月24日(水)	15:15～17:25	2
但東総合支所	6月29日(月)	14:00～17:20	3
市役所市長室	7月2日(木)	8:50～12:10	3
出石総合支所		14:00～17:20	3
竹野総合支所	7月3日(金)	14:00～17:20	3
日高総合支所	7月13日(月)	14:00～17:20	3

◆申込期限

6月10日(水)

◆申込方法

次の事項を記入の上、郵送、ファックス、またはメールで申し込みください。

①希望会場(第1・第2希望)

※時間指定はできません。

②グループの名称・プロフィール・人数・代表者(連絡先)

③トークのテーマ

◆その他

- ・申込みグループ多数の場合は抽選します。
- ・一時保育を実施(無料)しますので、希望の方は、申込み時にお知らせください。

◆申込み・問合せ

秘書広報課広報・交流係 ☎23-1111 FAX24-1004
メールアドレスkouhou@city.toyooka.lg.jp

中貝市長の徒然日記 ⑱

友達がいいたから

植村直己冒険賞の第11回の受賞者、アルピニストの野口健さんから聞いた話です。

野口さんは子どもたちの環境教育にも力を入れておられ、野口健康環境学校を開いておられます。そのプログラムの中に富士登山があります。

あるとき、参加者の中にどうしても周りと打ち解けようとしていない女子中学生がいました。野口さんが話を聞くと、

「私は勉強が良くできる。だから周りがばかに見えて、話をする気になれない。友達なんか要らない。私はわが道を行きます」「へえ？」

いよいよ富士山に登る日がやって来ました。野口さんは追い立てながら子どもたちを登らせていきます。

私も経験がありますが、登るにつれ、だんだん体がきつくなってきました。頂上が遠ざかっていくような気すらします。子どもたちの中にも脱落する子が出てきました。ところが、やがて子ども

ちは互いに声をかけ始めました。「頑張れ！」もう少しだ！遅れる子に手を差し伸べる子も出てきました。そうして無事山頂に着きました。その中に、あの女子生徒の姿もありました。

下山後、その女子生徒が野口さんの所にやって来て、こう言いました。「先生、私が間違っていた。友達なんか要らないと言ったけど、友達がいいたから登ることができた。友達が励ましてくれたから私は登ることができた」。

市内の中学生との座談会の中で野口さんが話をされたこのエピソードに、私は強く心を打たれました。

私たちは誰しも、他の誰でもない自分自身の人生を生き、その結果も、他の誰でもない自分自身で引き受けるしかありません。しかし、それでも私たちは一人ではないのだと、改めて思うのです。

